



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 007 June 28, 2004

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●カナダ政府、疾患の牛を補償

カナダ政府は、同国内の農場で飼育されている牛が何らかの病気や死亡により食肉として利用できなくなった場合、農場に補償金の支給を決定した。

詳細は今後決定されるが、この補償金制度によって、該当する牛の運搬などにかかる農場の負担が軽減され、政府への報告がより迅速になると期待される。

カナダ食品検査庁(CFIA)によると、病因・死因がBSEにあるかどうかを検査するために、農家からより多くの報告を引き出すことを目的としている。

なお、報告によりBSEが発見されても、農場側が損失をこうむることはないとしている。

※2004年6月14日 Meatingplace.com

米国食肉市場ニュース

～牛肉～

牛肉市況(6月7日～11日)

●肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり) :

主要5市場では、平均90.08ドル(先週比0.36ドル増)。
枝肉価格は平均145.24ドル(同1.77ドル増)。

●1月～5月までのと畜頭数 : 前年の同時期に比べて

7.4%減。昨年はカナダからの生体牛(50万5,448頭)が含まれていたが、今年はBSEによる輸入禁止でそれが含まれていないために数字が減少した。

●生体牛の取引値が90ドルまで上昇

サザン・プレーンズ(オクラホマ南部～テキサス北部)での生体牛の現金取引価格は、5月の第1週から下がり始め、6月初めには85ドルだったが、その後90ドルまで上昇した。

現在は生体牛の供給が少なく、アナリストの多くは、昨年の6月の76万4,000頭に比べ、今年のと畜頭数は70万頭程度と見込んでいるが、今後の市場の動きの予想は難しい。

この6月初めの価格上昇は、先物取引市場にも大きく影響を与えた。6～7月の生体牛供給は少なく、

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

体重(ポンド)	6月7～11日
400～500	—
500～600	120.00～135.75
600～700	111.25～125.25
700～800	108.00～119.50
800～1000	104.00～113.25

※2004年6月11日Cattle Outlook (Glen Grimes & Ron Plain)



米国食肉市場ニュース
～ 牛肉 ～

8月にはさらに減少すると予想される。需要が低下するかどうかは、7月4日(独立記念日)以降の天候と、他の食肉価格によると関係者は見ている。

※2004年6月7日 Cattle Buyers Weekly

●夏の需要が安定の様様

夏が近付く中、生体牛やボックス・ビーフの価格上昇が止まった様子だ。6月10日のネブラスカの市場では、前日まで高かった取引価格が下がり始めた。先週初めからバイヤーが高値を意識し始め、10日にはパッカーが指し値を下げ始めた模様だ。

ほとんどの小売業者が、7月4日(独立記念日)のための買い付けをすでに済ませていることから、この低価格は6月下旬以降も続く予想される。

アナリストは、6月1日から続いたボックス・ビーフの価格上昇(ポンド当たり10セント程度)が、この夏の牛肉売上に水を差すと予測している。小売業者は前年に比べ、豚肉と鶏肉に力を入れると見られ、牛肉では挽き肉や低価格のカットが主流となる見通し。

※2004年6月14日 Cattle Buyers Weekly

米国食肉市場ニュース
～ 豚肉 ～

豚肉市況(6月7日～11日)

●週間と畜頭数：約191万頭。

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は、先週比3.00ドル高。

100ポンド(約45kg)当りの豚肉製品価格(6月11日/US\$)

主要市場における100ポンド(約45kg)当りの最高価格(US\$)

	6月11日
ベオリア	53.00
セントポール	55.00
スーフォールズ	56.00
ミズーリ中央部	54.00

185ポンド物(約83.5kg)の枝肉平均価格(US\$)

	6月11日
東部トウモロコシ地帯	77.18
西部トウモロコシ地帯	77.15
アイオワ・ミネソタ	77.23
全国	77.17

製名	価格(前週比増減)	備考
ロイン	136.87 (-2.13)	トリム1/4インチ
ポストン・バット	98.00 (-0.50)	トリム1/4インチ
ポークベリー	110.00 (-6.00)	14～16ポンド物(約6.3～7.3kg)
ハム	65.00 (+4.69)	17～20ポンド物(約7.7～9.1kg)

※2004年6月11日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

セーフティー関連
ニュース

●米国加工業者の安全性に対する投資、年間総額5億7千万ドルに

米国農務省(USDA)の経済調査サービス(ERS・Economic Research Service)の全米調査によると、1990年代以降に食肉加工工場が行ってきた安全管理への投資によって、より高度な食品安全管理技術が発達したことが明らかになった。

1996年から2000年までに、全米の食肉加工工場は、年間3億8千万ドルを食品管理のために費やした。また長期的投資として、USDAが1996年に定めた病原体減少・危害分析と重要管理点監視システム(PR・HACCP)の規定に従うために5億7千万ドルを、さらに顧客のニーズに合わせて3億6千万ドルを投資している。国の規定だけでなく、市場における自社ブランドの構築も、工場での安全管理を高める要因となったようだ。

※2004年6月2日 NAMP Newsfax



パッカーニュース

●スミスフィールド・フーズ社が黒字に好転

スミスフィールド・フーズ社は、今年の第四半期の純利益が前年度に比べて大きく増加したと発表した。理由として、買収したファームランド・フーズ社のポーク事業の成長を挙げている。

全米で最大手の豚肉の生産者・加工業者として知られるスミスフィールドは、ビーフ事業でも米国5位。ただし、ビーフの営業利益は同4半期の320万ドルで、前年同期の1,750万ドル、今年の前4半期の740万ドルに比べてもかなり低くなっている。

しかし今回、ビーフ事業の利益率も回復したと発表。今期の高利益率は、牛肉の市場の回復と前述のポーク事業の好調、豚肉価格の飛躍的な回復が理由として挙げられる。

※2004年6月14日 Cattle Buyers Weekly

●カーギル社、牛の遺伝子研究で前進

カーギル社は、より高品質で安定した品質を持つ新しい牛の開発を目指して、2年間かけて行なってきたゲノムの研究を終了したと発表した。この研究は、同社の子会社であるエクセル社とキャブロック・キャトル・フィーダーズ社、そしてバイオビジネスを行っているメタモルフィクス社との提携で行われたもので、3,000頭以上の牛から血液サンプルを採取して体質特徴を比較し、1,400万回の遺伝子テストの結果、肉の柔らかさなど、食肉として好ましい特徴をゲノムの観点から解読した。

関係各社は、今後18カ月間、血液検査をフィードロットでの運用に用いて、実践的な技術として完成させるとしている。この研究により、遺伝子の特徴によって牛を振り分けることができるため、ロット毎に肥料の量や与える時間を調整するなど、効果的な運営が可能になる。

また、この技術は、今後その他の自社所有の牛や交配プログラムに応用できると見られる。

※2004年6月14日 Cattle Buyers Weekly